● お問合せは、下記の販売店までお気軽にどうぞ。

OTIS

日本オーチス・エレベータ株式会社
NIPPON OTIS ELEVATOR COMPANY

本社　新設本部　〒104-6012 東京都中央区晴海一丁目8番10号 晴海アイランドトリトンスクエア X棟　TEL(03)6220-1616（代）
URL: http://www.otis.com

安全に関するご注意	●設計および施工の前に設計施工の資料をよくお読みの上、正しく設計および施工してください。また必ず建築基準法および建築基準法施行令等の法令を遵守してください。 ●ご使用の前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。 ●湿気の多い場所や温度が高い場所には据え付けないでください。感電、火災、故障、変形などのおそれがあります。

ご使用の際、このような症状はありませんか。	●こげくさい臭いがしたり、運転中に異常な音や振動がある。 ●本体が傾いたりしてグラグラしている。 ●その他の異常・故障がある（ハンドレールがスリップしている・ステップやコムが破損している）。	▶	ご使用中止	このような症状のときは、故障や事故防止のため、ご使用を中止して、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

※ここに示した仕様は、本資料印刷時の数値です。改良等のため予告なく変更する場合があります。
※この資料についてのお問い合わせは本文中の販売網へお問い合わせください。

ESC セ-7(1)

この資料の記載内容は、2008年4月現在のものです。

OTIS

ESCALATOR

エスカレーター　設計施工の資料

506NCE
509MT

2008/4

⚠注意 正しく安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

INDEX

はじめに

当社では、エスカレーターの設計から製作・据付け・保守まで、すべて一貫してお引き受けいたします。
この「エスカレーター設計施工の資料」は、お客様に安全で快適なエスカレーターの設計および施工していただくためのものです。
エスカレーターを設計する前には、この資料をよくお読みいただき、正しく設計および施工してください。
お読みになった後は、エスカレーターを設計される方がいつでも読むことができるところに大切に保管してください。また、設計および施工方法において不明な点がございましたら、担当のセールスマンまたは最寄りの販売網までお問い合わせください。

安全に設計していただくために
本書の〈記号〉について

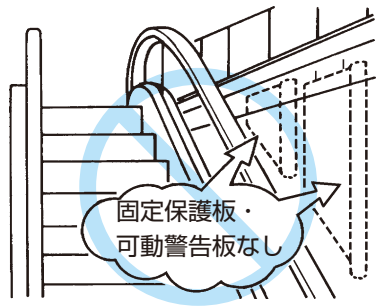
本書では、特に重要な事項や知っておいていただきたいことを、記号を用いて説明しております。それぞれの記号とその内容は次のとおりです。

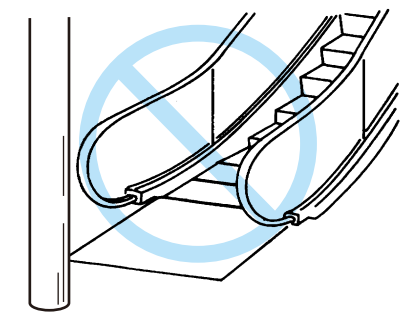
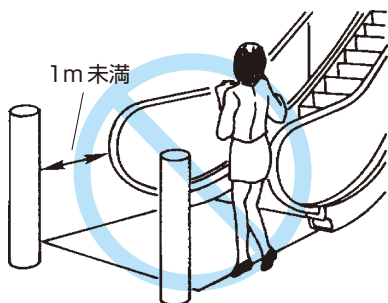
警告事項を守らないと、死亡や重傷に至る重大な事故を起こすおそれがあります。また、エスカレーターの認可を得ることができない場合があります。

注意事項を守らないと、ケガを負ったり、エスカレーターが損傷を起こすおそれがあります。

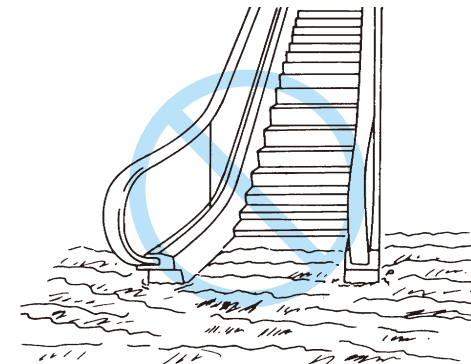
必ず守ってください

エスカレーターの設計・施工に際しては、以下の警告事項および注意事項を必ず守ってください。

⚠警告

エスカレーターの周辺に安全設備を設けないと、転落したり、頭を打ったり、首をはさまれたりすることにより死亡や重大な事故が起こるおそれがあります。エスカレーターの周辺には、状況に応じて必要な安全設備を設けてください。（17ページ参照）

ハンドレールの水平方向の近くや、ステップの鉛直方向の近くに柱や梁があると、頭を打ったり、首をはさまれたりすることにより死亡や重大な事故が起こるおそれがあります。ハンドレールから水平に0.5m以内に柱や梁などがある場合は、適切な保護装置を設けてください。（17ページ参照）

エスカレーターの乗降口まわりのスペースが狭いと、混雑時に利用者が乗り降りを妨げられて乗降できないことにより重大な事故が起こるおそれがあります。乗降口まわりは、十分なスペースを設けてください。

光電装置による自動運転式エスカレーターの場合、光電装置を通過しないで直接乗ったり、光電装置とエスカレーターとの距離が短すぎたりすると、転倒したりすることにより重大な事故が起こるおそれがあります。自動運転式エスカレーターは、下記のような設備と十分なスペースを設けてください。

- エスカレーターと光電装置の間に柵を設け、利用者が横から進入できないようにする。
- 光電装置とエスカレーターのハンドレールの折返し部先端までの間隔を1m以上とする。
  （JEAS-410A　エスカレーター自動運転方式の標準）

⚠警告

屋外に設置する場合は必ず屋外仕様を選択してください。また、同時に下記の設備を設けてください。

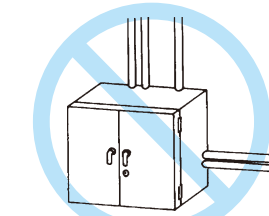
- フロアープレート内部に雨水が進入しないように乗降口を周囲の床面より高くし、床面と乗降口との間にスロープを設けると共にスロープの回りには排水溝を設ける。
- ピット内に排水設備を設ける。
- 夜間に利用者が足元が見えるように照明設備を設ける。
- 電源引き込み線用の引き込み口は防水構造とする。
- 全体をおおう屋根を設ける。

（JEAS-519（標11-02）　屋外設置エスカレーターに関する標準）

乗降口近くに防火シャッターがある場合、防火シャッターに連動してエスカレーターを運転しないと、混雑時に利用者が乗り降りを妨げられて乗降できないことにより重大な事故が起こるおそれがあります。ハンドレール折返し部の先端から2m以内に対面する防火シャッターがある場合は、エスカレーターの運転を防火シャッターに連動して停止する構造にしてください。

（JEAS-A407　エスカレーターと防火シャッター等との連動停止基準）

⚠注意

エスカレーターの周辺で溶接作業を行う時に養生しないで行うと、溶接火花によりガラスパネルや機器を損傷するおそれがあります。周辺での溶接は十分養生して行ってください。

エスカレーター用電源の電圧変動が大きいと、エスカレーターが誤作動したり機器が損傷したりするおそれがあります。供給する電力の電圧変動は、±5%以内としてください。また、エスカレーターの配電系統は他設備と共用しない専用幹線で配電してください。

機種・用途

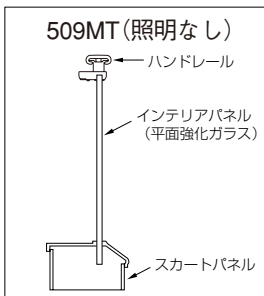
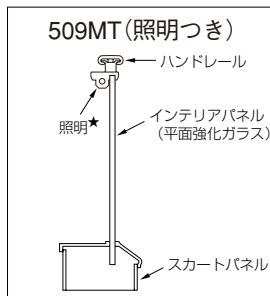
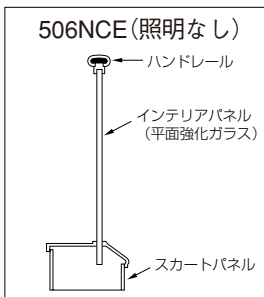
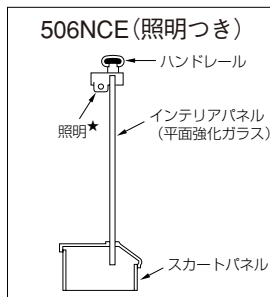
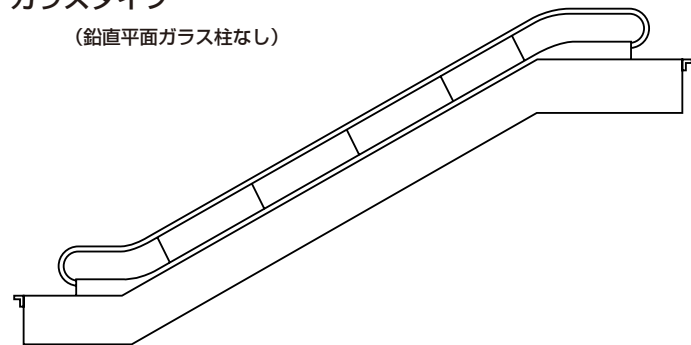
■特長・用途

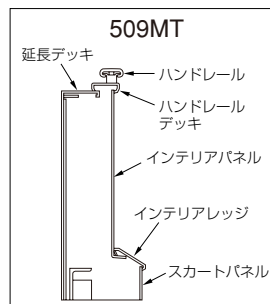
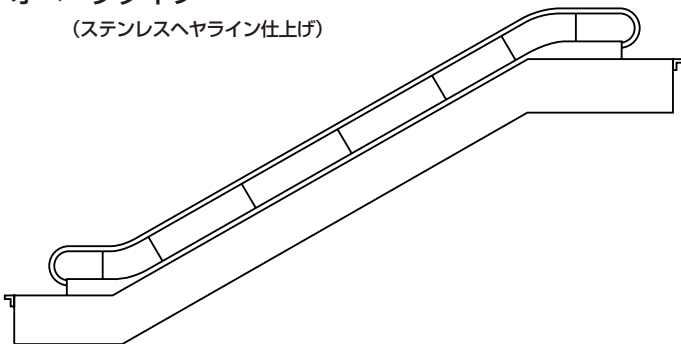
機　種		欄干部意匠	特　　長
506NCE	ガラスタイプ	鉛直平面強化ガラス、柱なし	スリムなボディの中に、鍛えぬかれた機能を凝縮。6.5mまでの階高で、建築デザインとの調和を求められる場所などに適しています。 ■主な設置場所 デパート・ミュージアム・ショッピングセンター・病院など
509MT	ガラスタイプ	鉛直平面強化ガラス、柱なし	さまざまな建築条件や設計に対応できる堅牢な造り。階高の高い物件や屋外への設置に対応し、多くの人が利用する場所に適しています。 ■主な設置場所 鉄道駅・地下鉄駅・バスターミナル・空港・地下通路・歩道橋など
	オペークタイプ	ステンレスヘヤライン仕上げ	

■機種

機　種	タイプ	公称ステップ幅	公称輸送能力	定格速度	勾　配
506NCE 509MT	S600形（旧800型）	600mm	4500人／時	30m／分	30度
	S1000形（旧1200型）	1000mm	9000人／時		

■エスカレーターと欄干の形状

ガラスタイプ
（鉛直平面ガラス柱なし）

★は有償付加仕様

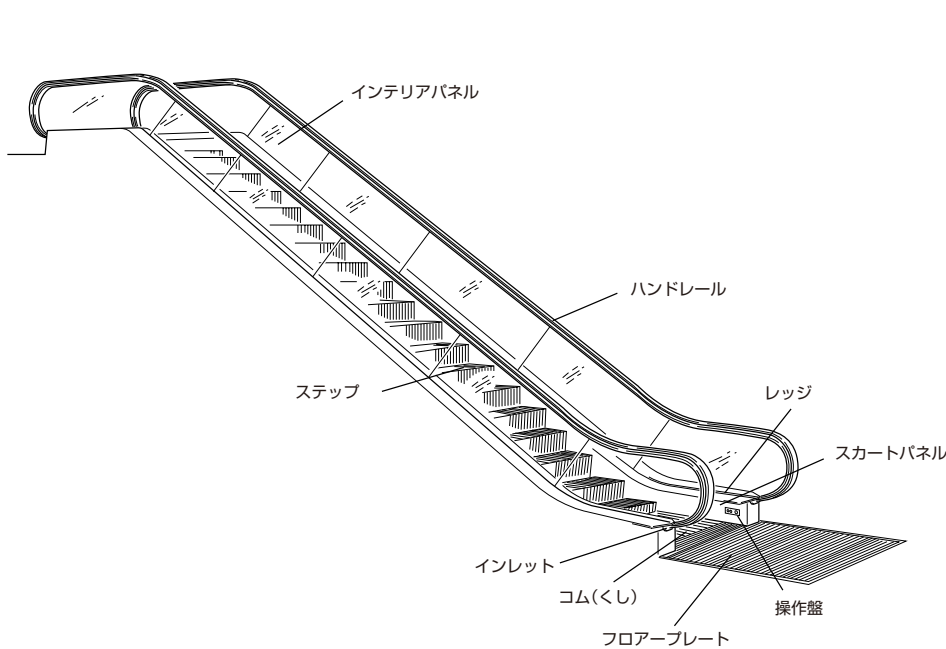
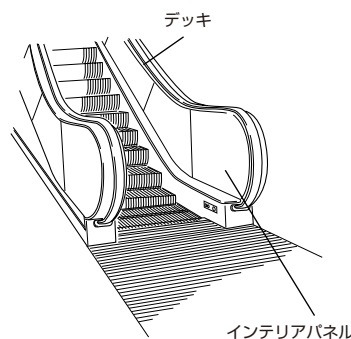
オペークタイプ
（ステンレスヘヤライン仕上げ）

仕様・意匠

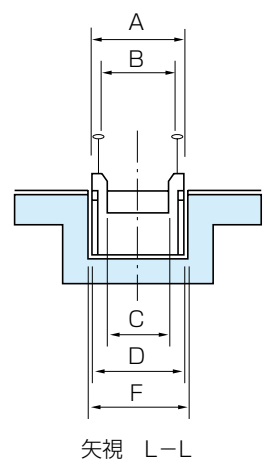
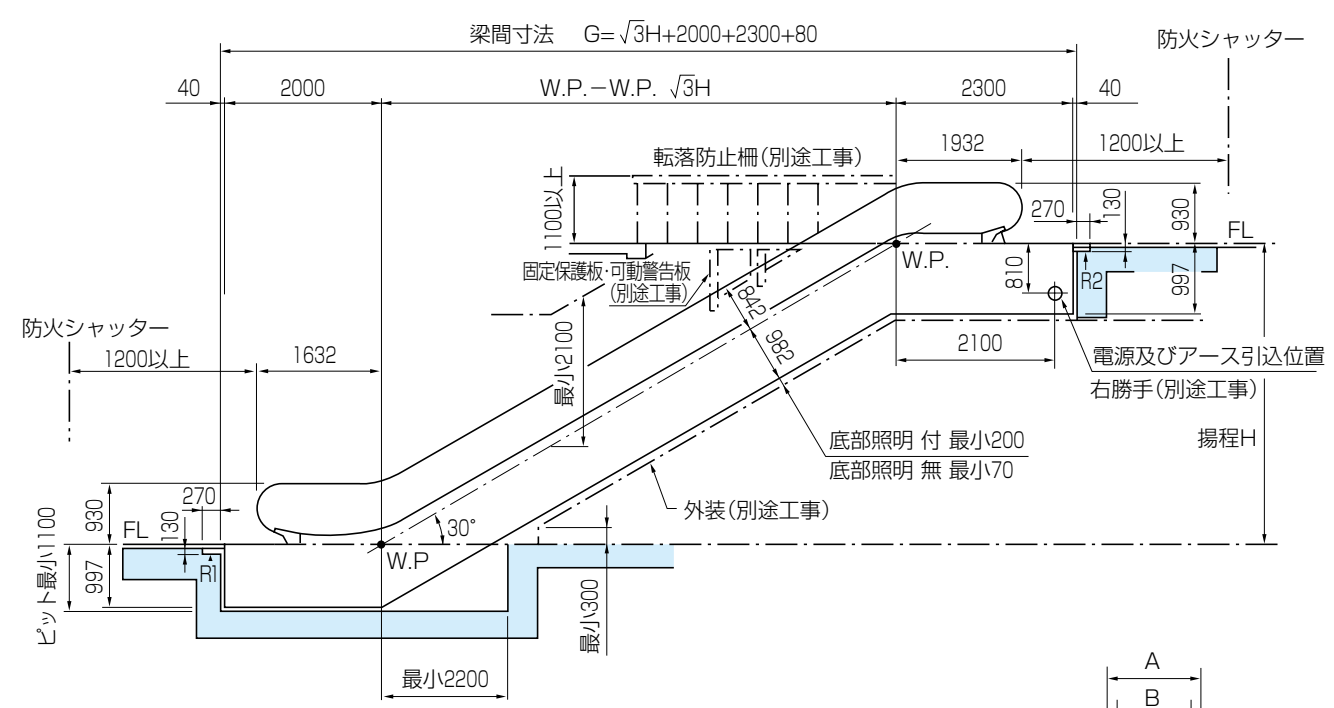
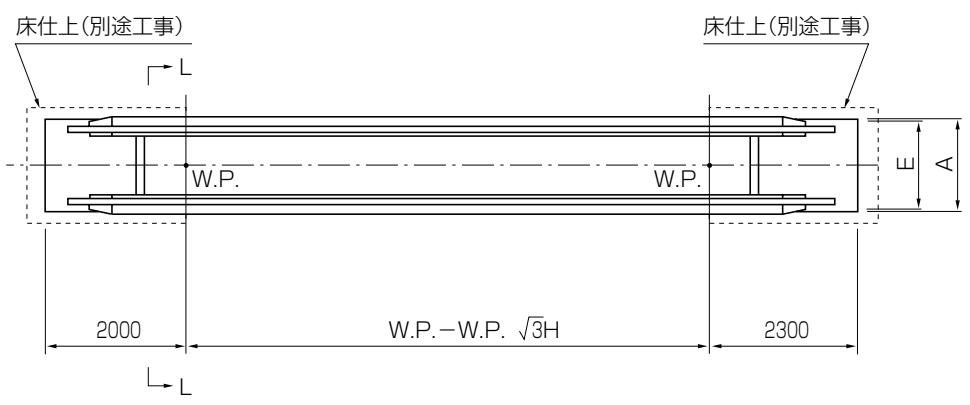
■仕様一覧

○印は基本仕様、★印は有償付加仕様

機　能			506NCE ガラス	509MT ガラス	509MT オペーク
欄干部（バラストレード）	欄干形式	鉛直平面強化ガラス･柱なしタイプ	○	○	
		ステンレスパネル･垂直タイプ			○
	操作方法	交流一段速度上下可逆式	○	○	○
	インテリアパネル	クリアガラス	○	○	
		カラードガラス	★	★	
		ステンレスヘヤライン仕上げ			○
	インテリア･エクステリアデッキ／レッジ	ステンレスヘヤライン仕上げ	○	○	○
	スカートパネル	鋼板フッ素樹脂コーティング仕上げ	○	○	○
		ステンレスヘヤライン仕上げ		★	★
フロアープレート	コム（くし）	アルミニウム成形品	○	★	★
		合成樹脂成形品（黒色）		○	○
	フロアープレート	ステンレス溝部黒色仕上げ	○	○	○
		階床文字	★	★	★
照明装置		ハンドレール下照明	★	★	
		スカートパネル照明	★		
		コムライト	★	★	★
		ステップ下照明	★	★	★
		乗場照明			★
その他		1200mm（約3枚）フラットステップ	★	★	★
		自動運転	★	★	★
		音声合成アナウンス装置（エレボア）	★	★	★
		屋外・準屋外仕様		★	★
		シャッター連動停止機能	★	★	★

■各部の名称

エスカレーター
〈ガラスタイプ〉

〈オペークタイプ〉

欄干部（バラストレード）…ステップより上部の部分をいいます。
オペークタイプ…インテリアパネルがステンレス鋼板の意匠をいいます。

標準据付図（506NCE）

タイプ	S600形（旧800型）	S1000形（旧1200型）
揚程　H	1500 ≦ H ≦ 6500	
公称ステップ幅	600	1000
公称輸送能力	4500人／時	9000人／時
勾配	30度	
制御方式	交流一段速度上下可逆式	
エスカレーター幅　A	1144	1550
ハンドレール中心間　B	802	1208
ステップ幅　C	605	1012
トラス幅　D	1094	1500
フロアープレート幅　E　ステンレス	1108	1514
床開口　F	1200	1600

（単位:mm）

■反力計算

S600形（旧800型）		
反力(N) / 揚程(mm)	R1	R2
1500≦H≦6000	(0.291G+235)x 9.81	(0.291G+715)x 9.81
6001≦H≦6500	(0.311G+204)x 9.81	(0.311G+765)x 9.81

S1000形（旧1200型）		
反力(N) / 揚程(mm)	R1	R2
1500≦H≦6000	(0.378G+235)x 9.81	(0.378G+715)x 9.81
6001≦H≦6500	(0.393G+204)x 9.81	(0.393G+765)x 9.81

G=梁間寸法（mm）

※外装、周辺安全設備については別途お問い合わせください。（別途工事）
※反力の（　）内はkgfの数値です。

⚠警告

■ エスカレーターの周辺に安全設備を設けないと、転落したり、頭を打ったり、首をはさまれたりすることにより死亡や重大な事故が起こるおそれがあります。エスカレーターの周辺には、状況に応じて必要な安全設備を設けてください。（17ページ参照）

■ エスカレーターの乗降口まわりのスペースが狭いと、混雑時に利用者が乗り降りを妨げられて乗降できないことにより重大な事故が起こるおそれがあります。乗降口まわりは、十分なスペースを設けてください。

■ 光電装置による自動運転式エスカレーターの場合、光電装置を通過しないで直接乗ったり、光電装置とエスカレーターとの距離が短すぎたりすると、転倒したりすることにより重大な事故が起こるおそれがあります。自動運転式エスカレーターは、下記のような設備と十分なスペースを設けてください。
- エスカレーターと光電装置の間に柵を設け、利用者が横から進入できないようにする。
- 光電装置とエスカレーターのハンドレールの折返し部先端までの間隔を1m以上とする。（JEAS-410A参照）

■ 乗降口近くに防火シャッターがある場合、防火シャッターに連動してエスカレーターを運転しないと、混雑時に利用者が乗り降りを妨げられて乗降できないことにより重大な事故が起こるおそれがあります。ハンドレール折返し部の先端から2m以内に対面する防火シャッターがある場合は、エスカレーターの運転を防火シャッターに連動して停止する構造にしてください。（JEAS-A407参照）

標準据付図（506NCE）

標準据付図（509MT）

タイプ	S600形（旧800型）		S1000形（旧1200型）	
揚程　H	2500≦H≦6500	6501≦H≦9500	2500≦H≦6500	6501≦H≦9500
公称ステップ幅	600		1000	
公称輸送能力	4500人／時		9000人／時	
勾配	30度			
制御方式	交流一段速度上下可逆式			
エスカレーター幅　A	1150		1550	
ハンドレール中心間　B	810		1210	
ステップ幅　C	604		1004	
トラス幅　D	1100		1500	
フロアープレート幅　E	950		1350	
床開口　F	1200		1600	
トラス　N	2300	2500	2300	2500
フロアプレート　Y	2280	2480	2280	2480

(単位：mm)

■反力計算

S600形（旧800型）			
反力(N) ／ 揚程(mm)	R1	R2	R3
2500≦H≦5000	(0.52H+1500) x 9.81	(0.52H+2100) x 9.81	−
5001≦H≦6000	(0.52H+1750) x 9.81	(0.52H+2350) x 9.81	−
6001≦H≦6500	(0.3G1+ 350) x 9.81	(0.3G2+ 950) x 9.81	{0.3(G1+G2)+350}x 9.81
6501≦H≦9500	(0.3G1+ 500) x 9.81	(0.3G2+1200) x 9.81	{0.3(G1+G2)+500}x 9.81

S1000形（旧1200型）			
反力(N) ／ 揚程(mm)	R1	R2	R3
2500≦H≦4500	(0.66H+2000) x 9.81	(0.66H+2700) x 9.81	−
4501≦H≦6000	(0.66H+2150) x 9.81	(0.66H+2850) x 9.81	−
6001≦H≦6500	(0.4G1+ 350) x 9.81	(0.4G2+ 950) x 9.81	{0.4(G1+G2)+350}x 9.81
6501≦H≦9500	(0.4G1+ 500) x 9.81	(0.4G2+1200) x 9.81	{0.4(G1+G2)+500}x 9.81

G=梁間寸法(mm)

※外装、周辺安全設備については別途お問い合わせください。（別途工事）
※反力の（　）内はkgfの数値です。

⚠警告

■ エスカレーターの周辺に安全設備を設けないと、転落したり、頭を打ったり、首をはさまれたりすることにより死亡や重大な事故が起こるおそれがあります。エスカレーターの周辺には、状況に応じて必要な安全設備を設けてください。（17ページ参照）

■ エスカレーターの乗降口まわりのスペースが狭いと、混雑時に利用者が乗り降りを妨げられて乗降できないことにより重大な事故が起こるおそれがあります。乗降口まわりは、十分なスペースを設けてください。

■ 光電装置による自動運転式エスカレーターの場合、光電装置を通過しないで直接乗ったり、光電装置とエスカレーターとの距離が短すぎたりすると、転倒したりすることにより重大な事故が起こるおそれがあります。自動運転式エスカレーターは、下記のような設備と十分なスペースを設けてください。

- エスカレーターと光電装置の間に柵を設け、利用者が横から進入できないようにする。
- 光電装置とエスカレーターのハンドレールの折返し部先端までの間隔を1m以上とする。（JEAS-410A参照）

■ 乗降口近くに防火シャッターがある場合、防火シャッターに連動してエスカレーターを運転しないと、混雑時に利用者が乗り降りを妨げられて乗降できないことにより重大な事故が起こるおそれがあります。ハンドレール折返し部の先端から2m以内に対面する防火シャッターがある場合は、エスカレーターの運転を防火シャッターに連動して停止する構造にしてください。
（JEAS-A407参照）

標準据付図（509MT）

電気設備

■電気系統図

※ 点検用および照明電源設備は、照明仕様および揚程により異なります。別途担当のセールスマンまたは最寄の販売網までお問い合わせください。
※ 509MTにて屋内設置の場合、ハンドレール下照明の電源は動力電源より分岐となります。
※ 太線の配管配線は別途工事となります。

⚠注意

エスカレーター用電源の電圧変動が大きいと、エスカレーターが誤作動したり機器が損傷したりするおそれがあります。供給する電力の電圧変動は、±5%以内としてください。また、エスカレーターの配電系統は他設備と共用しない専用幹線で配電してください。

エスカレーター

■電動機出力と最大揚程

機　種	電動機出力 (kW)	最大揚程(mm)	
		S600形（旧800型）	S1000形（旧1200型）
506NCE	3.7	4300	—
	5.5	6100	4300
	7.5	6500	6500

機　種	電動機出力 (kW)	最大揚程(mm)	
		S600形（旧800型）	S1000形（旧1200型）
509MT	3.7	4500	—
	5.5	6500	4500
	7.5	—	6500

※揚程6500mm以上、重負荷仕様（交通機関等）の場合は別途お問い合せください。

■動力電源設備（506NCE）

※電線太さは銅電線を金属配管した条件にて算出しています。

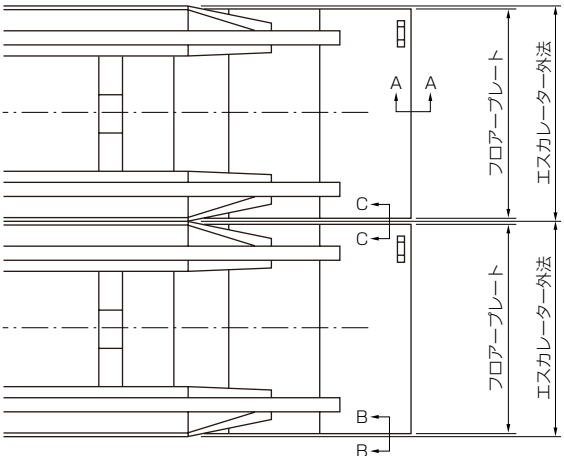
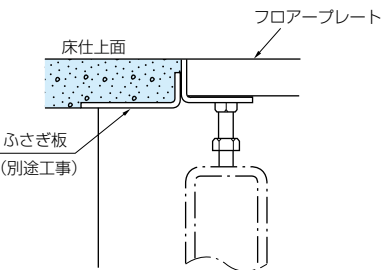
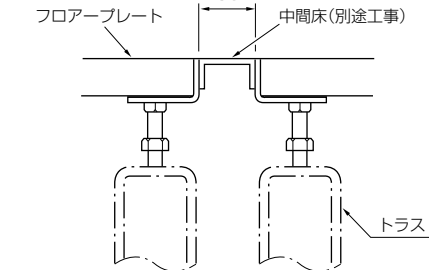
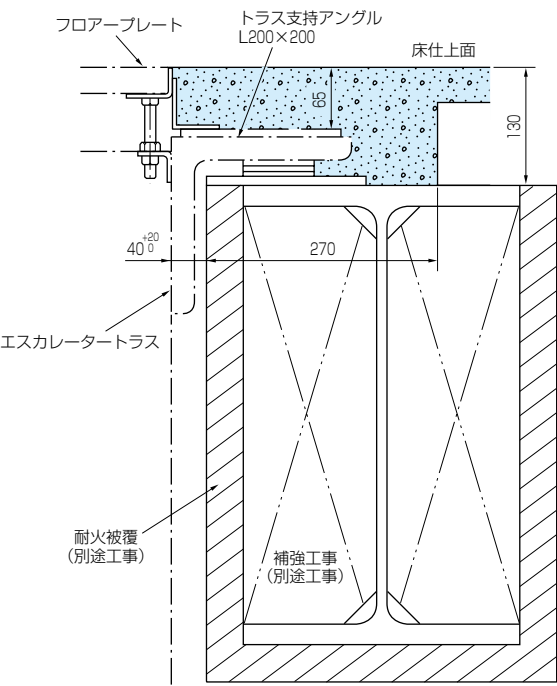
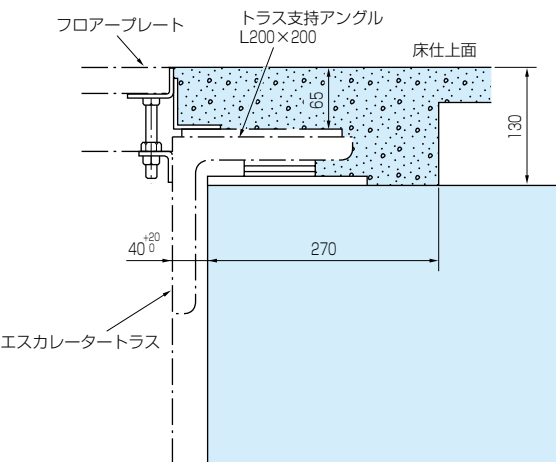
電動機出力 (kW)	電　圧 AC3相	トランス容量 (kVA)	電源側NFB定格電流(A)	動力電源線の最大こう長(m)									最小接地線サイズ mm^2
				3.5mm^2	5.5mm^2	8mm^2	14mm^2	22mm^2	38mm^2	60mm^2	100mm^2	150mm^2	
3.7	200V系	9.0	40	25	40	65	115	170	275	405	575	725	3.5
	400V系	9.0	30	110	175	255	435	655	1045	—	—	—	2.0
5.5	200V系	12.0	60	15	30	40	75	120	190	285	400	505	5.5
	400V系	12.0	30	80	125	180	310	465	745	1090	—	—	2.0
7.5	200V系	15.0	75	—	—	30	60	90	150	220	315	395	5.5
	400V系	15.0	40	60	95	140	245	370	585	860	1220	—	3.5

■動力電源設備（509MT）

※電線太さは銅電線を金属配管した条件にて算出しています。
※（　）はハンドレール下照明付の場合となります。

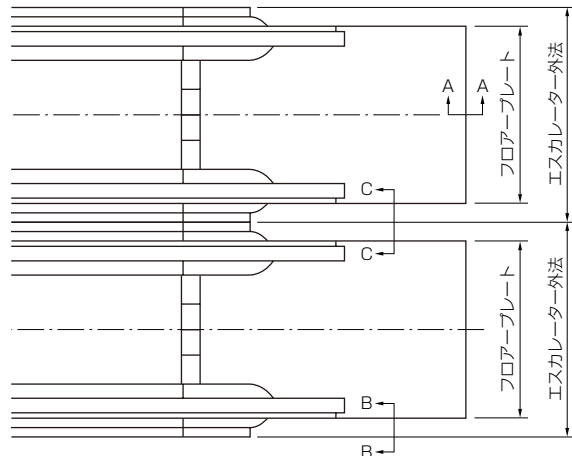
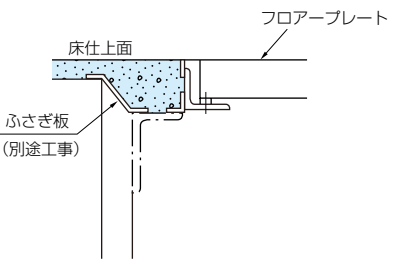
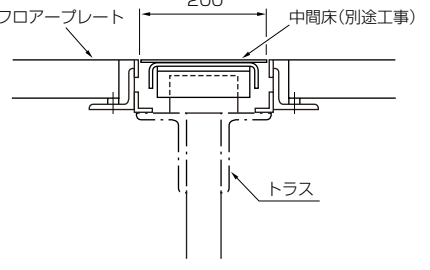
電動機出力 (kW)	電　圧 AC3相	トランス容量 (kVA)	電源側NFB定格電流(A)	動力電源線の最大こう長(m)									最小接地線サイズ mm^2
				3.5mm^2	5.5mm^2	8mm^2	14mm^2	22mm^2	38mm^2	60mm^2	100mm^2	150mm^2	
3.7	200V系	5.5	50	—	30 (30)	45 (40)	80 (75)	120 (115)	195 (185)	285 (270)	415 (390)	540 (510)	5.5
	400V系	5.5	30	75 (70)	115 (115)	180 (170)	305 (285)	460 (435)	755 (710)	1095 (1030)	—	—	3.5
5.5	200V系	8.0	75	—	20 (20)	30 (30)	50 (50)	85 (80)	140 (135)	190 (180)	280 (265)	365 (345)	5.5
	400V系	8.0	50	60 (55)	90 (85)	130 (125)	205 (195)	315 (300)	515 (490)	750 (710)	—	—	3.5
7.5	200V系	10.0	75	—	—	20 (20)	35 (35)	55 (55)	95 (90)	140 (135)	205 (200)	270 (265)	5.5
	400V系	10.0	50	40 (40)	65 (60)	90 (90)	150 (145)	230 (220)	380 (365)	550 (530)	805 (775)	1050 (1005)	5.5

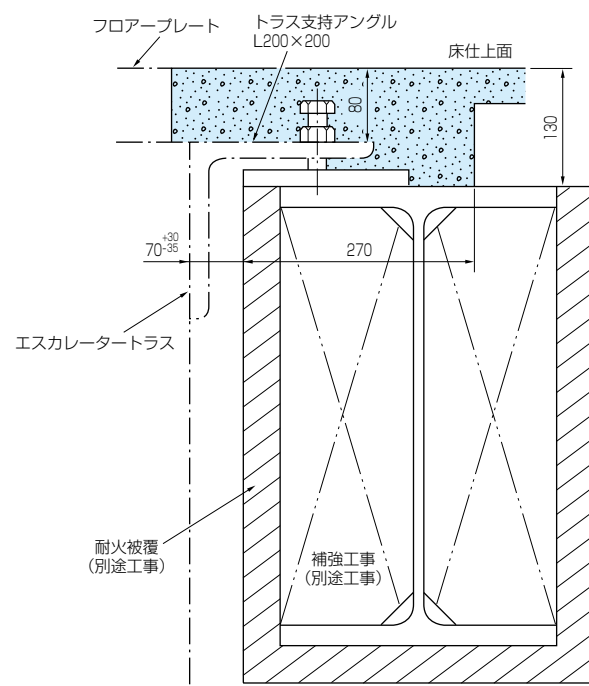
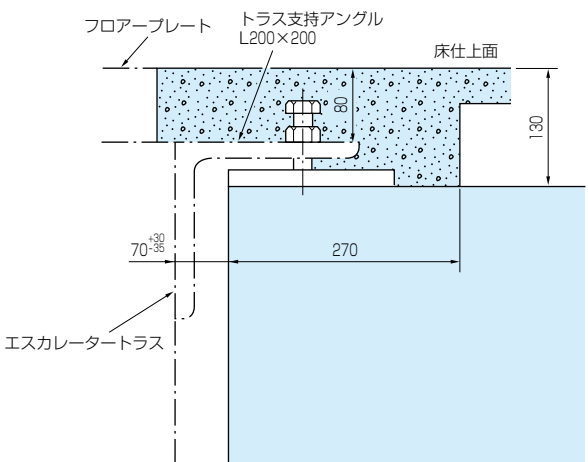
建物との関係（506NCE）

■フロアープレートと床仕上げ

■支持梁部詳細（A－A断面）

支持梁が鉄骨のとき

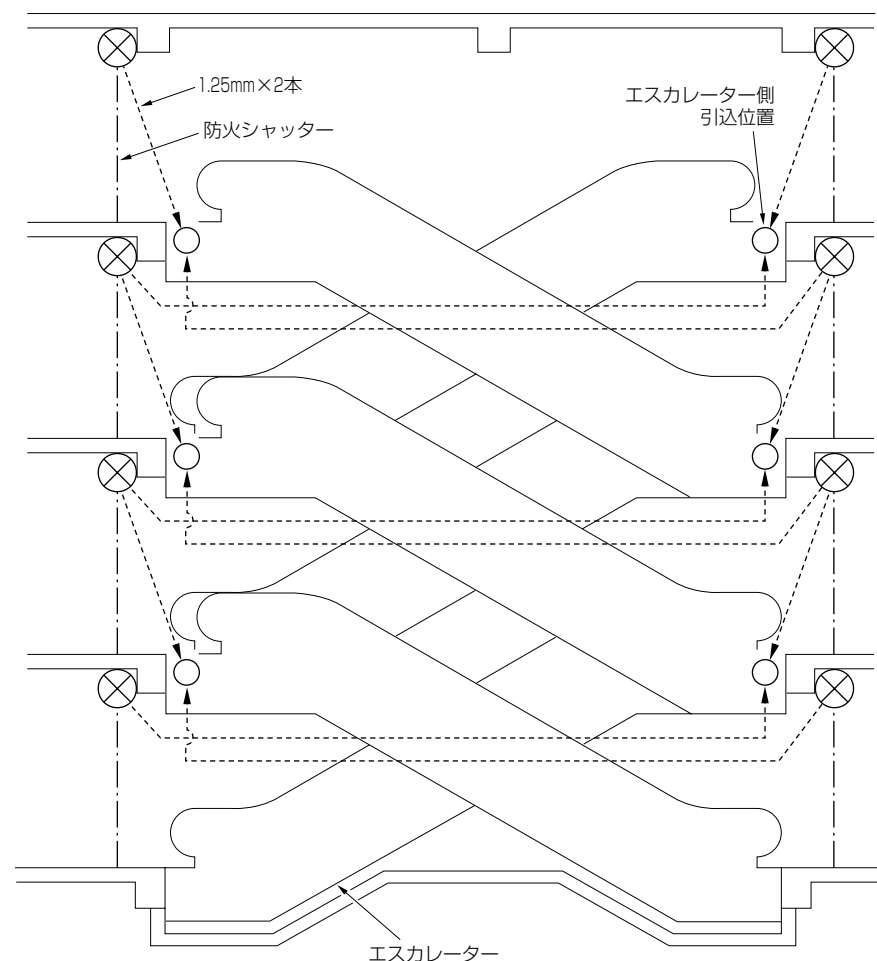
支持梁がコンクリートのとき

建物との関係（509MT）

■フロアープレートと床仕上げ

■支持梁部詳細（A－A断面）

支持梁が鉄骨のとき

支持梁がコンクリートのとき

建物との関係（別途工事となります）

■防火シャッターとの連動

エスカレーターと防火シャッターの連動信号線配管・配線工事：シャッター信号スイッチよりエスカレーター機械室までの引込み工事1.25mm²×2本（各号機各々2回線）

周辺の安全設備（別途工事となります）

・建築基準法 第129条 第1項 第一号
・平成12年建設省告示1417号第1項第三号
・JEAS-A406(標改13-1)

⚠警告

エスカレーターの周辺に下記の安全設備を設けないと、転落したり、頭を打ったり、首をはさまれたりすることにより死亡や重大な事故が起こるおそれがあります。エスカレーターの周辺には、状況に応じて下記の安全設備を設けてください。

- 固定保護板・可動警告板
- 転落防止柵、落下物防止せき、および進入防止用仕切板
- 落下物防止網または落下物防止板
- 登り防止用仕切板

■固定保護板・可動警告板

エスカレーターと交さする天井等(隣接エスカレーターの側下面を含む)の下面の端部がハンドレール外縁からの水平距離で500mm以内に近接する場合は、次の各号による固定保護板を設けること。(図１)

(1) 固定保護板は軽量で十分な強さを持つ材料(アクリル板等)で作成し、前縁は厚さ6mm以上で角のない形状とする。(直径50mm以上の円筒形をお勧めします。)

(2) 前縁の長さはハンドレール上面より鉛直下方に200mm以上とする。但し、不可能な場合はデッキボード上に乗せても良い。(オペークの場合)(図2)

(3) 交さ部の構造により固定保護板のネジ止めができない場合は、上下4本以上の鎖にて強固に固定する。(図3)

(4) 可動警告板は厚さ3mm以上、前縁は直径50mm 以上の円筒形とし、交さ部より1000mm以上の位置に設置する。また、可動警告板がハンドレールを乗り越えない長さを確保する。(可動警告板の設置に法的義務はありませんが、利用者の安全確保のためにも設置をお勧めします。)

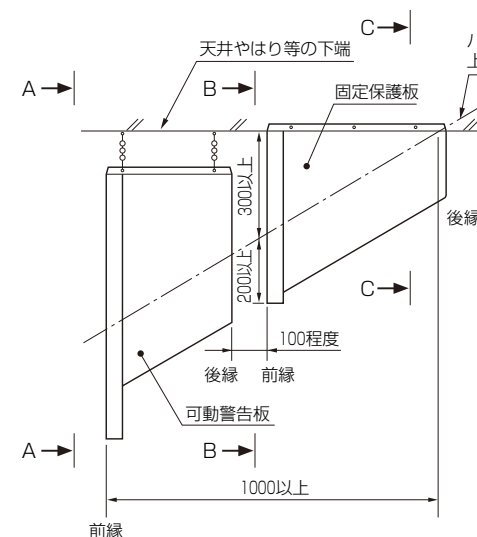
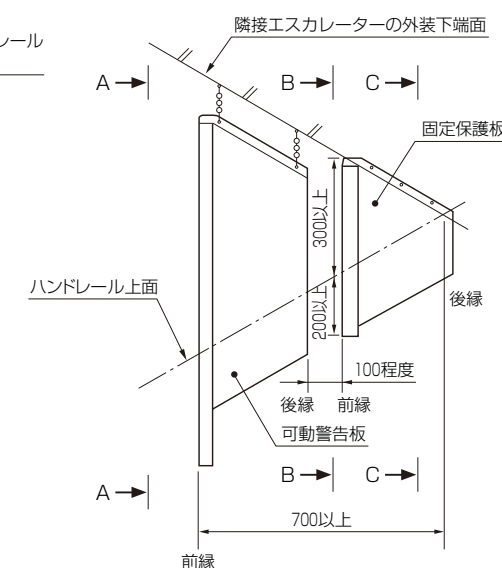
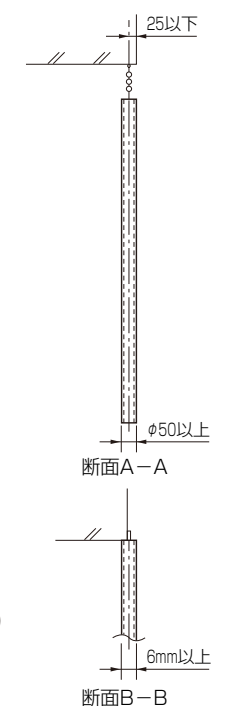
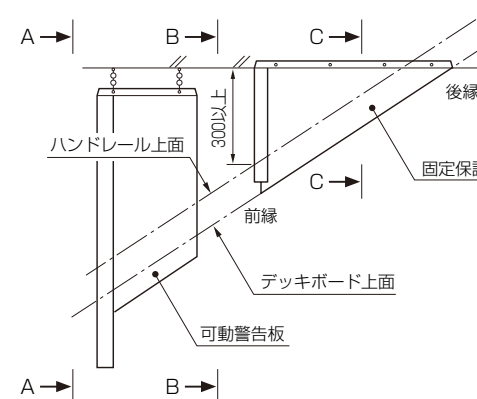
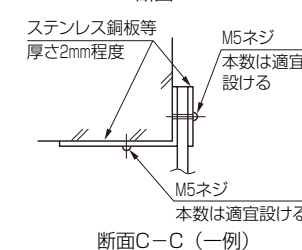
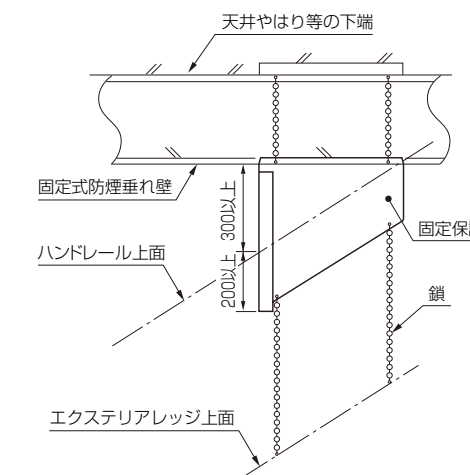
●交さ部30度の場合(図1-1)　●交さ部60度の場合(図1-2)　●断面図

25以下
φ50以上
断面A－A
6mm以上
断面B－B

●オペークタイプの場合(図2)

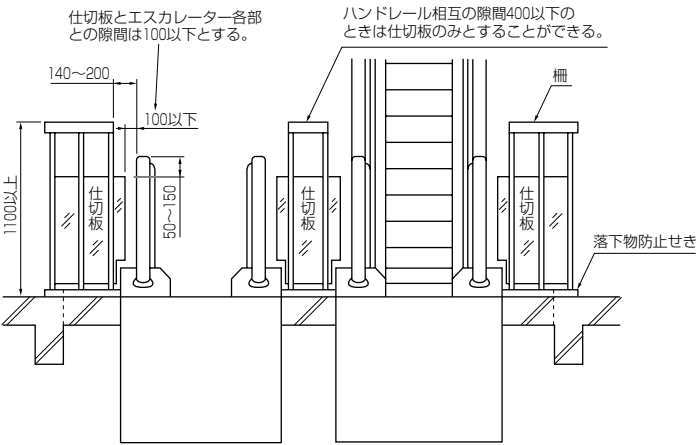
天井やはり等の下端
ハンドレール上面
300以上
後縁
固定保護板
前縁
デッキボード上面
可動警告板

●固定保護板のネジ止めができない場合(図3)

天井やはり等の下端
固定式防煙垂れ壁
ハンドレール上面
300以上
200以上
固定保護板
鎖
エクステリアレッジ上面

■転落防止柵、落下物防止せき、および進入防止用仕切板

エスカレーターと建物床の開口部との間に隙間や空間がある場合は、転落防止柵および落下物防止せきを設けること。なお、乗降口に面する部分は子供が誤って進入しないよう仕切板を設けること。（図4）

■登り防止用仕切板

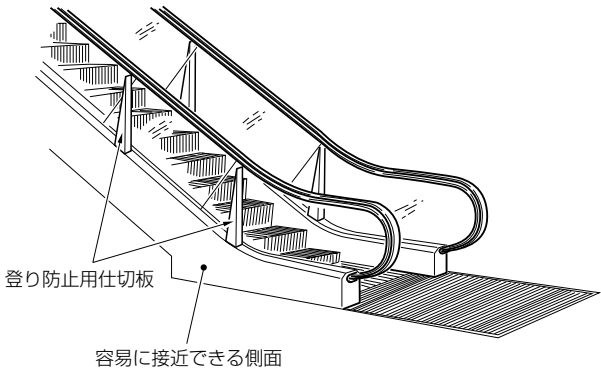
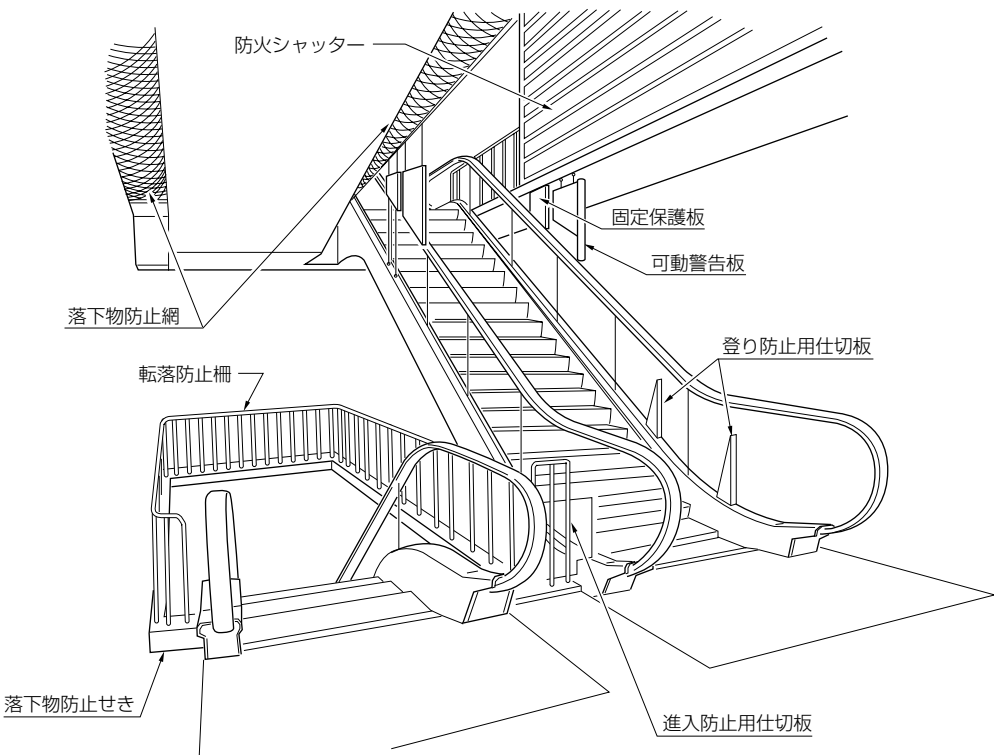
エスカレーターの側面に容易に接近できる場合、子供によるいたずら防止のため登り防止用仕切板を1側面につき2ヶ所設けること。（図5）

■落下物防止網または落下物防止板

(1) エスカレーター相互間またはエスカレーターと建物床等の開口部との間の200mm以上の隙間のある場合は、落下物による危害を防止するための網などを隔階ごとに設置すること。（図6）
(2) その網などの骨組は鋼材などで作り、取付けは堅固な構造とすること。
(3) 網などの形状は直径50mmの球を通さないこと。
(4) 網などを設けない場合は、エスカレーターの外側に沿って垂直な落下防止板を設けること。

●落下物防止せき、進入防止用仕切板（図4）

●登り防止用仕切板（図5）

●安全設備配置図（図6）

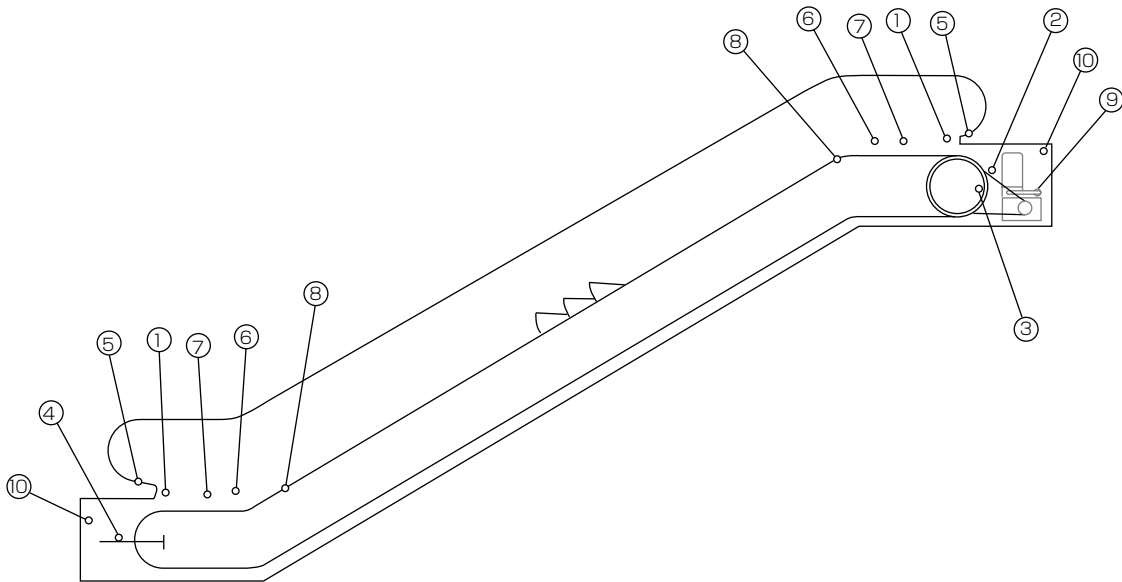
工事範囲（別途工事となります）

■建築関係

No.	内容
1	据付け用床の穴あけ工事および復旧工事
2	据付け用支持梁の築造工事
3	エスカレーター搬入吊込み用スラブ穴あけ工事または梁スリーブ穴あけ工事および復旧工事
4	最下階、エスカレーター下部ピット内の防水工事（下部機械室の下に居室等がある場合は耐火構造のピット施工）
5	据付け後のエスカレーター周囲の床、および天井まわり等の仕上げ工事
6	エスカレーターまわりの手摺り、および下がり壁等の工事
7	エスカレーターと天井またはエスカレーターとエスカレーターが交さする部分の固定保護板等の設置工事
8	エスカレーターと建築床部分が吹き抜けになった場合の手摺りおよび転落防止柵等の設備工事
9	エスカレーターとエスカレーターの中間が吹き抜けになった場合の進入防止用仕切板等の設備工事
10	エスカレーターと建築床が吹き抜けの場合またはエスカレーターとエスカレーターの中間が吹き抜けになった場合の落下物防止網等の設備工事
11	エスカレーターの外装工事
12	エスカレーターと建築天井および壁等の取合い部分の目地工事
13	エスカレーターの操作盤を建屋壁等に設置する場合の壁穴あけと仕上げ工事
14	既設建屋に設置する場合のエスカレーター搬入口の壁穴あけと仕上げ工事
15	既設建屋に設置する場合のエスカレーターまわりの養生工事（搬入経路の養生を含む）および復旧工事
16	エスカレーター据付け用および試運転調整用の電源の供給
17	自動運転用光電管、表示灯、誘導手摺等の設置工事

■電気、設備関係

No.	内容
1	動力用電源： エスカレーター上部機械室、受電盤までの配管配線工事
2	底部照明および点検用電源： エスカレーター上部機械室受電盤までの配管、配線工事
3	アース線（第3種または特別第3種）： エスカレーター上部機械室受電盤までの配管、配線工事
4	監視盤用配管配線： 監視盤設置場所よりエスカレーター制御盤までの配管、配線工事（複数台設置の場合はエスカレーター毎に）
5	エスカレーターと防火シャッターの連動信号線、配管配線： 防火シャッター信号スイッチよりエスカレーター機械までの配管、配線工事、1.25mm²×2本、各号機毎に（接点容量DC125V、0.2AまたはAC250V、1A）防火シャッター側に設けるスイッチに無電圧b接点（防火シャッターが閉じ始めたら開く接点）を準備ください。
6	エスカレーターの操作盤が別設置（壁埋込み等）の場合の配管、配線工事
7	エスカレーターの底部照明用入切スイッチの設備施工工事
8	エスカレーターの底部照明の非常灯設備工事
9	スプリンクラー、放送用スピーカー、および案内灯等の設備工事

安全装置

エスカレーターには、次の安全装置を装備しています。

■安全装置詳細

No.	名　称	機　能
1	非常停止ボタン	このボタンを押すことにより、直ちにエスカレーターを停止させます。
2	駆動チェーン安全装置	駆動チェーンが伸びたり、万一切断した場合、電源を切り、機械的に補助ブレーキと連動しエスカレーターを停止させます。
3	補助ブレーキ	駆動チェーン安全装置と連動し、機械的にエスカレーターを停止させます。
4	ステップチェーン安全装置	ステップチェーンが過度に伸びたり、切断した場合、エスカレーターを停止させます。
5	インレット安全装置	ハンドレールの入り込み口に手元や異物が引き込まれた場合、エスカレーターを停止させます。
6	スカートパネル安全装置	ステップとスカートパネルの間に異物が引き込まれた場合にエスカレーターを停止させます。
7	コムプレート安全装置	ステップとコムプレートの間に異物が引き込まれた場合にエスカレーターを停止させます。
8	ステップ走行安全装置	ステップとステップの間に異物がはさまったり、ステップが異常走行した場合にエスカレーターを停止させます。
9	ブレーキ	動力電源が切れた場合、直ちに作動しエスカレーターを停止させます。
10	点検用安全装置	エスカレーターの上下部機械室で保守点検の際、制御回路の電源を切る装置です。

MEMO

MEMO

全国を結ぶ信頼のネットワーク

■北海道支店
〒060-0003　札幌市中央区北3条西一丁目1番地1　札幌パナソニックビル
TEL.(011)222-4411(代)

■東北支店
〒980-0811　仙台市青葉区一番町一丁目3番1号　日本生命仙台ビル
TEL.(022)225-5721(代)

■北関東支店
〒330-8669　さいたま市大宮区桜木町一丁目7番地5号　ソニックシティビル
TEL.(048)643-0286(代)

■千葉支店
〒260-0013　千葉市中央区中央一丁目1番3号　住生・りそな千葉ビル
TEL.(043)224-9311(代)

■成田空港サービス支店
〒282-0011　成田市三里塚字御料牧場1番2　臨空開発第1センタービル
TEL.(0476)32-6780(代)

■首都圏支店
〒104-6013　東京都中央区晴海一丁目8番10号
晴海アイランドトリトンスクエアX棟　TEL.(03)6220-1701(代)

■神奈川支店
〒231-0021　横浜市中区日本大通18番地　KRCビル
TEL.(045)641-5651(代)

■静岡支店
〒420-0034　静岡市葵区常磐町二丁目13番1号　住友生命静岡常磐町ビル
TEL.(054)254-9501(代)

■中部支店
〒460-0008　名古屋市中区栄四丁目15番32号　日建住生ビル
TEL.(052)261-1381(代)

■北陸支店
〒920-8203　金沢市鞍月五丁目181番地　AUBEビル
TEL.(076)238-7977(代)

■京都支店
〒604-0845　京都市中京区烏丸通御池上ル二条殿町548番地
京都パナソニックビル　TEL.(075)212-5533(代)

■近畿支店
〒540-6110　大阪市中央区城見二丁目1番61号　ツイン21MIDタワー
TEL.(06)6949-1331(代)

■神戸支店
〒650-0034　神戸市中央区京町78番地　神戸パナソニックビル
TEL.(078)391-4502(代)

■中国支店
〒732-0827　広島市南区稲荷町5番18号　栄泉稲荷町ビル
TEL.(082)263-7111(代)

■四国支店
〒760-0019　高松市サンポート2番1号　高松シンボルタワー
TEL.(087)822-2865(代)

■九州支店
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前一丁目9番3号　福岡MIDビル
TEL.(092)481-0931(代)

全国 営業所／出張所／分室一覧

■営業所：札幌中央／札幌東／札幌西／旭川／釧路／盛岡／新潟／東京／中央（首都圏）／秋葉原／上野／港／品川／渋谷／新宿／池袋／西東京／甲信／横浜／川崎／相模／三島／名古屋／岐阜・尾張／三河／三重／京都北／京都南／滋賀／中央（近畿）／北／OBP／本町／南／堺／奈良／神戸／阪神／兵庫西／岡山／熊本／沖縄

■出張所：函館／室蘭／登別／苫小牧／小樽／稚内／北見／富良野／帯広／山形／庄内／福島／郡山／会津／いわき／青森／八戸／弘前／秋田／和光／茨城／宇都宮／今市／太田／前橋／上越／湯沢／長岡／木更津／成田／長野／甲府／松本／諏訪／飯田／横須賀／小田原／本郷台／平塚／浜松／浜岡／熱海／下田／高山／岐阜／知多／豊田／豊橋／四日市／鳥羽／福井／富山／小松／能登／福知山／田辺／湖東／千里／泉南／和歌山／河内長野／白浜／淡路島／川西／姫路／和田山／三田／下関／山口／宇部／周南／松江／米子／鳥取／津山／福山／尾道／倉敷／松山／新居浜／高知／徳島／宇和島／北九州／大分／久留米／長崎／佐世保／諫早／宮崎／鹿児島

■分　室：仙台東／埼玉西／埼玉東／船橋／柏／浦安／臨海／蒲田／武蔵野／溝の口／藤沢／名駅／藤が丘／長岡京／桜島／高槻／北大阪／京阪／枚方／東大阪／明石／五日市